

校長だより

和歌山市立八幡台小学校

2023.1.20

NO, 5 8

二十四節気 「大寒」

コロナ感染症とともに、数年ぶりにインフルエンザも流行し始めたようです。和歌山市内でも感染する児童が急に増えてきていると聞きました。学校でも今一度、手洗い、換気、マスクの着用等、感染対策をしっかりと行うよう、子どもたちにも話をしていきたいと考えています。

さて、本日1月20日は「大寒」です。大寒は「二十四節気」の一つで、最も寒さの厳しい頃といわれています。「二十四節気」とは、1年を太陽の動きに合わせて24等分して、それぞれの季節に名称を与えた昔の呼び方で、現在でも季節の節目などを示す言葉として使われています。メディアとかではよく耳にしますよね。次の二十四節気は2月4日の「立春」となります。四季の最初が、立春、立夏、立秋、立冬で、この4つは「四立（しりゅう）」と呼ばれています。立春は春の始まりです。一年で最も寒い季節のあとには春が待っているということですね。子どもたちにも、こういった日本の伝承について知ることを通し、日本という国について興味関心を高めてほしいなと思っています。

【幸せは、冷蔵庫の残り物で作る料理だと思うんですよ。作れないものを考えたら、きりが無い。世界一大きな冷蔵庫に世界中の食材を集めても、作れない料理はある。残り物で『お好み焼きもどきは作れるね』とか、作れるものを考えたらすごく幸せだと思うんですよ 秋元康】

日本の作詞家、音楽プロデューサーの「秋元康」さんの言葉です。私がとても好きな言葉なんです。今の状況の中で、考え方、意識の持ち方ひとつで幸せを感じることができるというこの言葉に元気づけられた記憶があります。「隣の芝生は青く見える」という言葉とも併せて考えると、一つの事象で、結局、幸せを感じられずに不幸な部分しか意識できなくなってしまうようなことが起こってしまいます。まあ、それは極端な話かもしれませんが、意識の持ち方ひとつで「幸せ」の感じ方はきっと変わるはず！自分の現状で幸せを感じることができれば、人生、得した気分になると思いませんか？私は、幸せを感じる心・考え方・スタイル、そういったものを大切にしていければなと思っています。